

県土第09-263号

令和4年 3月25日

国土交通省近畿地方整備局長

東川 直正 様

三重県知事 一見 勝之

新宮川水系（熊野川）河川整備計画策定について（回答）

令和4年2月25日付け国近整河計第70号で照会があったことについて同意します。

なお、下記のと通りの意見についてご配慮いただきますようお願いいたします。

記

1. 新宮川水系（熊野川）の整備・維持管理のあり方に関して

(1) 治水

- ・ 平成23年紀伊半島大水害における基準点の流量は24,000 m<sup>3</sup>/sであり、整備目標22,000m<sup>3</sup>/sを上回ることから、24,000m<sup>3</sup>/sの洪水に対しても、できるだけ水位を低下させる取組を推進すること
- ・ 近年、激甚化・頻発化している豪雨による水災害や今後の気候変動の影響を踏まえ、整備目標を上回る洪水や整備途上段階で施設能力を上回る洪水に対して、被害を可能な限り軽減させるため、流域のあらゆる関係者が協働して治水対策に取り組む「流域治水」を推進すること
- ・ 熊野川の流域は今後30年間に70%～80%の確率で発生すると言われて、いる東南海・南海地震の震源地に位置するため、想定される地震や津波に対する必要な対策を推進すること

(2) 河川環境の維持

- ・ 平成23年紀伊半島大水害における流域の荒廃により、河川景観や河川環境への影響が懸念されている濁水長期化問題について、これまでの取組の効果の検証を行うとともに、関係機関と連携し、濁水及びその長期化を抑制する更なる取組を推進すること

(3) 総合的な土砂管理

- ・ 熊野川の流域では、上流部の土砂流出抑制対策、中流部の利水ダムの堆砂対策、下流部の河口砂州の管理、海岸での浸食抑制対策と様々な土砂管理上の問題を有している。このため、河道掘削により発生する土砂を海岸の養浜材料等に有効活用するなど、流域内の関係者が連携する持続可能な総合土砂管理を推進するとともに、水系一貫の管理が実現できるよう総合土砂管理計画を策定すること

(4) 河川の整備に要する費用、実施時期

- ・ 今後とも地方財政は厳しい状況が予想されるため、河川の整備にあたって徹底したコスト縮減に努めるとともに、事業費、整備スケジュールについて県民の理解が得られるよう、事前に協議調整を図ること

以上

